



# 熱く 温かく

裾野市立東中学校だより 令和6年8月27日(火)

〈校 訓〉 自主 ～誠実・清純・勤勉～  
〈学校教育目標〉 未来に向かって 自分らしく 生きる人  
〈キーワード〉 考える 対話する 多様性を認める

## 充実した夏休みだったでしょうか？

## 回 覧

いよいよ2学期がスタートしました。生徒たちが充実した夏休みを過ごせたことを切に願います。この2学期も元気に登校し、「未来に向かって 自分らしく生きる人」に向かって、意欲的に学校生活を過ごしてほしいと思います。



目標に向かって～夏休みの部活動～

この夏休み、オリンピック、地震、終戦記念日…、様々なイベントや出来事がありました。そして先週までは全国高校野球大会で熱戦が繰り広げられていました。そこで、「今」を象徴しているシーンがありました。ノーアウト、ランナー1、2 塁。打者は送りバントを試みましたが、失敗に終わりました。そこでのシーンです。送りバントを失敗した打者は笑顔でベンチに戻っていきました。ある報道番組では、松坂大輔氏も、選手たちの笑顔を強調されていました。時代が変わったことを再確認したシーンでした。失敗して笑顔を見せるなど、もっての外だった時代を経験している身にとっては、その変化は驚きです。しかしながら、ある記事は指摘しています。

「高度成長期の日本では、元野球部、すなわち指導者の指示に忠実で、理不尽な要求にめげないストレス耐性を持つ人物が重宝されていた。しかし時代は変わり、現在は自ら試行錯誤を繰り返し、最適解を導き出せる人材が求められている」(JBpress 東野望氏)と。ここ数年で話題になっている、仙台育英高校野球部や慶応高校野球部の監督さん達も同様のことをおっしゃっています。そのことを的確に示している本があります。加藤弘士氏著「慶応高校野球部～『まかせる力』が人を育てる～」のサブタイトルです。

『『やらせる』ではなく『まかせる』』『『教える』まえに『問いかける』』『『正解』より『成長』』。

高校野球に限ったことではありません。これらのスタンスは、おそらくですが、Jリーグの発展を促し、今や世界の脅威となった侍ブルーの躍進を支えています。オリンピックの好成績もしかりです。それらを支えるべき義務教育が新しく変わることは時代が求めていると考えます。もちろん、教えなければならないことは教えていかなければなりません、主体性は伸ばしていく必要があると感じています。

この夏休み、生徒たちが、どれだけ、人にやらされたのではなく、自分から目標に向かって頑張れたかが、今後の成長につながると考えます。そして、それは夏休みだけではなく、2学期、これからの人生においても同様です。夏休み充実していたのであれば、その調子で2学期以降も充実させてほしいと思います。もしも後悔があるようであれば、その反省をこれからの生かしてほしいと思います。

## 肝試し、やって Me TIME !

8月23日(金)18:30から、本校校舎内で「肝試し」が行われました。「やって Me TIME」で、生徒が「やってみたい！」と思ったことを実現させたものです。生徒が中心となって、企画・運営を行い、そのことに賛同したコミュニティ・スクールの方々、保護者、地域の方々が、生徒の「やってみたい！」を実現させようと、全面的にバック・アップしてくださいました。当日は、児童・生徒の叫び声が校舎内に響き渡り、盛況ぶりがうか



生徒の主体性と地域の協力～肝試し～

がえました。親子で参加していた小学生も、「もう、だめだめ！」などと声を上げながら校舎内を巡る様子を感じて、生徒たちや支えてくださった方々も「やって良かった！」と思えるものになったと確信しています。企画・運営した生徒の皆さんを、心から「素晴らしい！」と称賛します。今世の中で求められている力、「主体性」「働きかけ力」「実行力」「計画力」「創造力」(経済産業省「社会人基礎力」から)等が、大きく育まれたことと思います。そして、それを支えてくださった、コミュニティ・スクールの皆様、保護者・地域の方々、本当にありがとうございます。学校だけではなく、様々な経験を通して成長していく生徒たちを見ていると、コミュニテ



やってみよう！の実現に向けて、主体的に企画・運営～肝試し実行委員・スタッフの皆さん～

ィ・スクールの重要性を改めて強く感じる機会となりました。今後も、地域の中の学校として、生徒たちの成長を、コミュニティ・スクール、保護者の皆様、そして地域の方々と共に強いタッグを組んで、見守っていただけるよう努力いたしますので、アドバイス、ご協力をお願いいたします。

## 東雲祭に向けて

いよいよ2学期がスタートし、東雲祭に向けて本格的に始動します。夏休み前には、3年生は「カラーダンス」の振り付けや隊形などを考えていました。

先日、そのカラーダンスを立ち上げた教員にお会いし、カラーダンスが未だ生徒中心に頑張っていて盛り上げていることを伝えたところ、とても喜んでいました。そして「生徒たちは成長しているんですね！」とおっしゃいました。カラーダンスをはじめ全ての教育活動は、生徒の「成長」のためにあると考えています。その方はこうもおっしゃいました。「生徒たちは壁を乗り越えているんですね！」と。そして、その方はこう続けました。「生徒たちにはいっぱい悩んでほしい、苦しんでほしい。そのことをみんなで乗り越えるからこそ、カラーダンスは意味があるのです。」「ただ、みんなで踊って楽しかった！ではカラーダンスの意味がありません。」「3年生がリーダーシップを発揮し、みんなで、悩んで、乗り越えて、創り上げるからこそ意味があるのです！」と。



悩んで、苦しんで、創り上げて、最後はみんなで感動！～カラーダンス 昨年度のシーンから～

東雲祭は生徒の成長のためにあります。カラーダンスだけではなく、リレーや合唱など、「一人はみんなのために」「みんなは一人のために」取り組むからこそ意味があるのです。

## 東地区コミュニティ祭りについて

11月3日に東地区コミュニティ祭りが開催されますが、今のところボランティアの希望がないようです。中学生の力を地域が求めています。当日ボランティアとして参加できる生徒がいまいたら、別添の申し込み方法で申し込みをお願いします。